

WebFOCUS インストール手順書 for Windows Version 9.3.5

本手順書では、WebFOCUS for Windows および WebFOCUS App Studio 新規および更新インストール・構成のために必要な作業手順を記載しています。

必ずご一読の上、必要なトピックを選択し、以下手順に従ってインストールを行ってください。

本手順書では、WebFOCUS をインストールするための最低限、かつ日本語環境で推奨される設定手順について説明しており、WebFOCUS のすべての構成内容における手順を網羅、説明するものではありません。WebFOCUS の詳細なインストールと構成手順は、「WebFOCUS インストールガイド for Windows」を参照してください。

WebFOCUS インストールの基本手順

WebFOCUS をインストールする場合、新規インストールと（既にインストール済の以前のバージョンから）更新インストールする 2 通りの手順があります。本手順書では、新規インストールに必要な手順、更新インストールに必要な手順、および新規インストールと更新インストールの両方に必要な手順を章ごとに記載しています。

WebFOCUS を新規インストールするか、または更新インストールをするかを確認の上、下記の該当する章を参照し、インストールを実施してください。新規インストール、または更新インストールを行った後、3 章の「新規/更新インストール共通手順」を行ってください。

1 章： 新規インストール手順

P3~19

-
- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| ■ WebFOCUS Reporting Server の新規インストール | ■ WebFOCUS Client の新規インストール |
| ■ 通貨記号と日付の日本語表示設定 | ■ WebFOCUS の Unicode 構成 |
| ■ ReportCaster の Unicode 構成 | |

2 章： 更新インストール手順

P20~28

-
- | | |
|---------------------------------------|-----------------------------|
| ■ WebFOCUS Reporting Server の更新インストール | ■ WebFOCUS Client の更新インストール |
| ■ 既存データとコンテンツのインデックス化 | |

3 章： 新規/更新インストール共通手順

P29~40

-
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| ■ WebFOCUS Client パッチの適用 | ■ WebFOCUS Client OpenJDK の適用 |
| ■ Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成 | ■ 設定ファイル（edaserve.cfg）の編集 |
| ■ ReportCaster のレジストリパラメータ設定 | ■ WebFOCUS App Studio のインストール |
| ■ WebFOCUS App Studio OpenJDK の適用 | |

1章 新規インストール手順

WebFOCUS Reporting ServerとWebFOCUS Clientを新規にインストールする場合は、以下の手順で実施してください。

WebFOCUS Reporting Server の新規インストール

【事前確認】

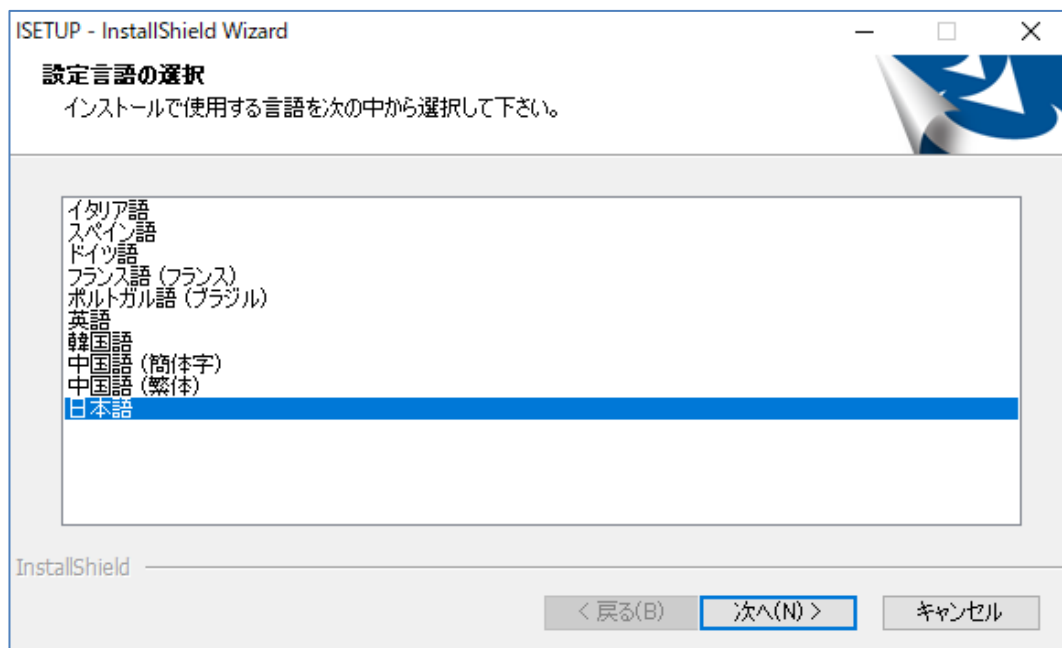
WebFOCUS Reporting Server は下記ディレクトリにインストールします。Cドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストールルートの選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

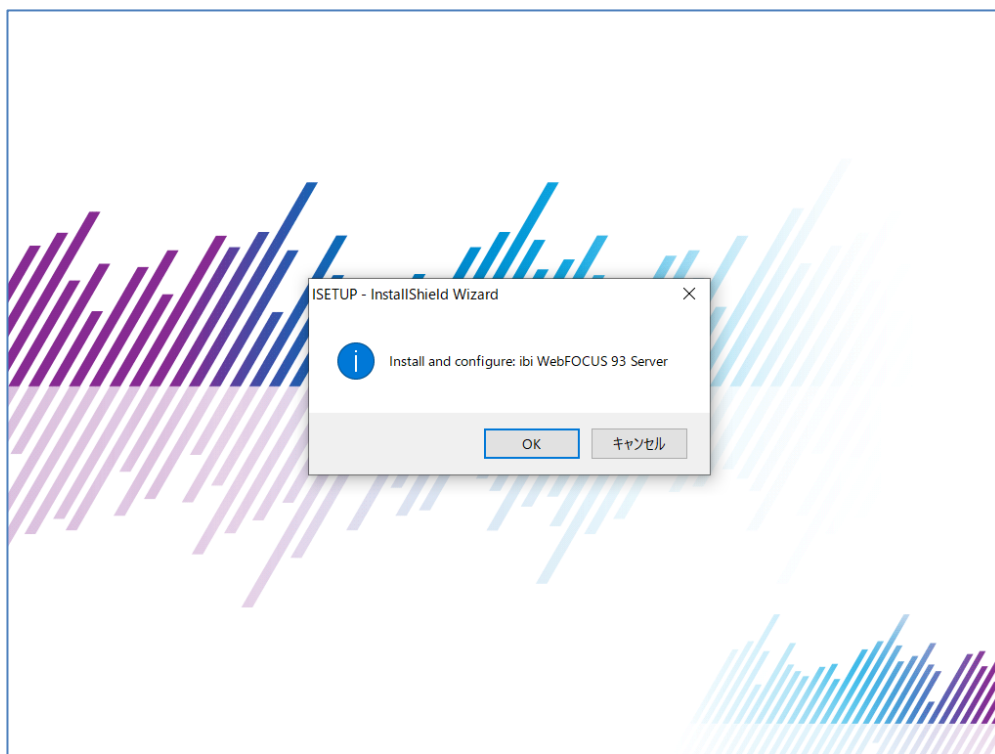
例：C:\ibi\srv93

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server のインストールを行います。

1. **ibi¥Server** ディレクトリにある **setup.exe** をダブルクリックします。
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「次へ」をクリックします。



3. 下記のような画面が表示された場合は「OK」をクリックし、そのまましばらく待ちます。



4. 「使用権許諾」画面が表示されますので、使用許諾契約の条項を下部までスクロールし、「はい」をクリックします。



5. 初期設定の選択画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
顧客 ID	-	別途提供される顧客 ID を入力	※詳細は『WebFOCUS リリースノート_追補版』をご参照ください。
インストールルート	-	C:¥	※要件に合わせて変更可
SMTP メールサーバの構成	チェックしない		
システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成	チェック		

初期設定の選択

顧客 ID を入力 (必須)

顧客 ID: 123456

プログラムフォルダを選択

選択したプログラムフォルダに、プログラムアイコンが追加されます。

プログラムフォルダ: WebFOCUS 93 Server

インストールディレクトリを選択

ローカルインストールのドライブ名とディレクトリ名、またはネットワークインストールのネットワーク共有名とディレクトリ名を選択してください。

セットアップは、インストールルートを .¥srv93 ディレクトリ構造の親ディレクトリとして使用します。

インストールルート: C:¥

参照(R)

☐ デフォルトディレクトリパスのカスタマイズ

☐ SMTP メールサーバの構成

☒ システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

6. 初期設定の選択画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
サーバ管理者 ID	-	admin	※要件に合わせて変更可
パスワード	-	admin	※要件に合わせて変更可
HTTP リスナポート	-	8121	
ファイアウォール例外 IP ポートの追加	チェック		

サーバ基本情報の構成

サーバ管理者 ID とパスワード
 サーバ内部セキュリティプロバイダ (PTH) の認証情報
 サーバ管理者 ID (デフォルト = srvadmin):
 サーバ管理者パスワード:
 パスワードの再入力:
 Web コンソールの [アクセスコントロール] オプションを使用して、OPSSYS、LDAP、その他の代替または追加のセキュリティプロバイダを構成してください。

HTTP および TCP/IP サービス
 HTTP リスナポート:
 サーバの IP ベースサービスで使用する、連続した 7 つのポート番号中 2 つ目の番号です。
 HTTPS (SSL) の場合、Web コンソールのワークスペースでリスナのプロパティページから構成します。

☒ ファイアウォール例外 IP ポートの追加

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 「続行」を選択します

選択した製品パラメタの確認

続行する前に、選択したインストールパラメタを確認してください。

新規インストール: 製品: WebFOCUS Reporting Server
 プログラムフォルダ: WebFOCUS 93 Server
 顧客 ID: 123456

セキュリティと通信:
 サーバセキュリティプロバイダ: PTH
 サーバ管理者 ID: admin
 サーバ管理者パスワード:
 HTTP ポート: 8121
 TCP/IP ポート: 8120
 ファイアウォール例外ポート: はい

SMTP メールサーバ:
 SMTP メールサーバは構成されていません。

NLS 地域設定:
 LANGUAGE = JAPANESE
 CDN = COMMAS_DOT
 CURRENCY_ISO_CODE = JPY
 DATE_ORDER = YMD
 WEEKFIRST = ISO1

インストールディレクトリ:
 EDASHOME C:\ibw\serv93\home
 EDADONF C:\ibw\serv93\wfs
 EDAPRUF C:\ibw\profiles
 APPROOT C:\ibw\apps
 HOMEAPPS C:\ibw\homeapps

ディスク空き領域情報:
 必要領域: 3852 MB
 空き領域: 62659 MB

< 戻る(B) 続行(C) > キャンセル

8. 完了画面が表示されますので、「完了」をクリックし、インストール画面を終了します。

ライセンスファイル (license.txt) の適用

WebFOCUS V9.3.0 より、WebFOCUS Reporting Server を利用するために、顧客 ID とライセンスファイルの適用が必要となりました。詳細は『WebFOCUS リリースノート_アシスト追補版』をご確認ください。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを停止します。
2. 以下のディレクトリに、入手したライセンスファイル (license.txt) を配置します。

ライセンスファイルの配置場所：

drive:¥ibi¥srv93¥wfs¥bin

3. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。

以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは終了です。

WebFOCUS Client の新規インストール

【事前確認】

WebFOCUS Client は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先フォルダの選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS Client インストールディレクトリ】

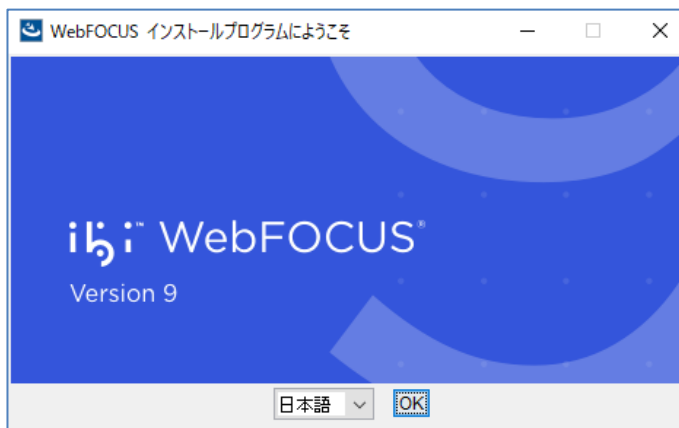
例：C:\ibi\WebFOCUS93

以下の手順で WebFOCUS Client をインストールします。

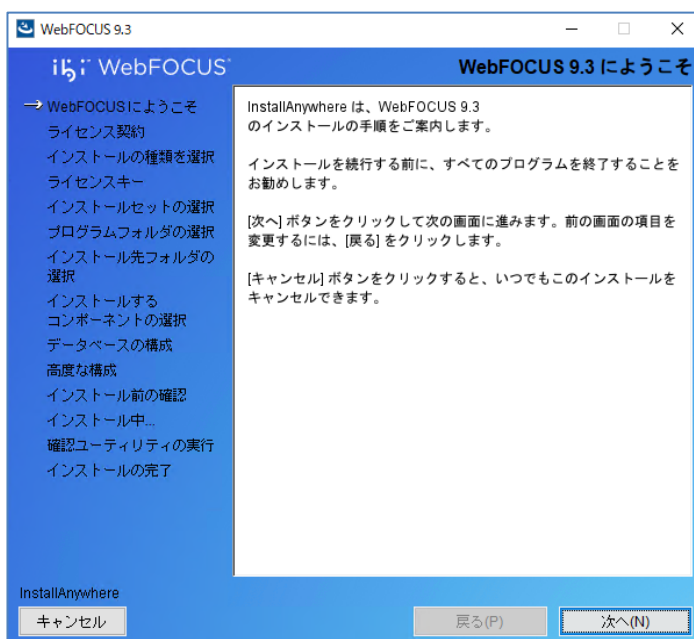
1. ibiClient ディレクトリにある IBI_wf-wf_9.3.*_win_x86_64.exe をダブルクリックします。

※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります。

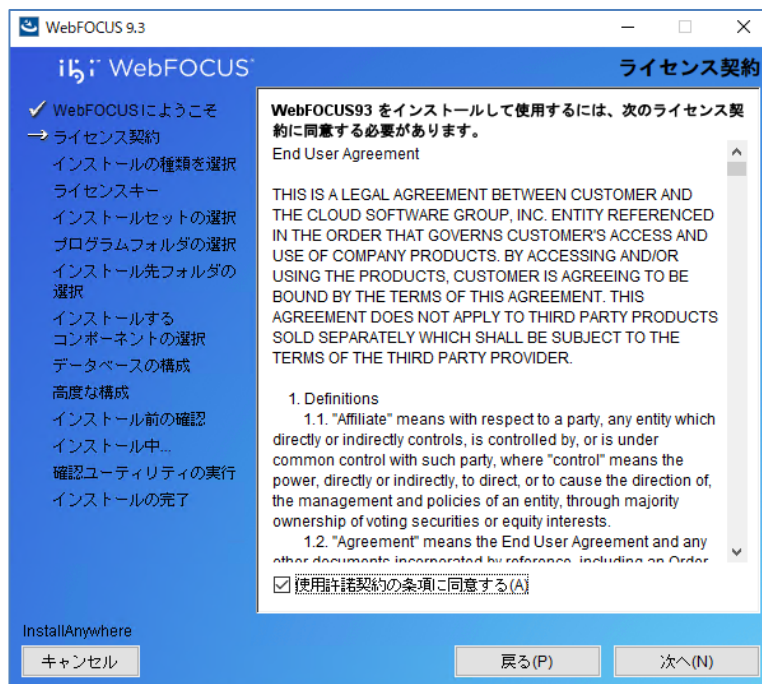
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



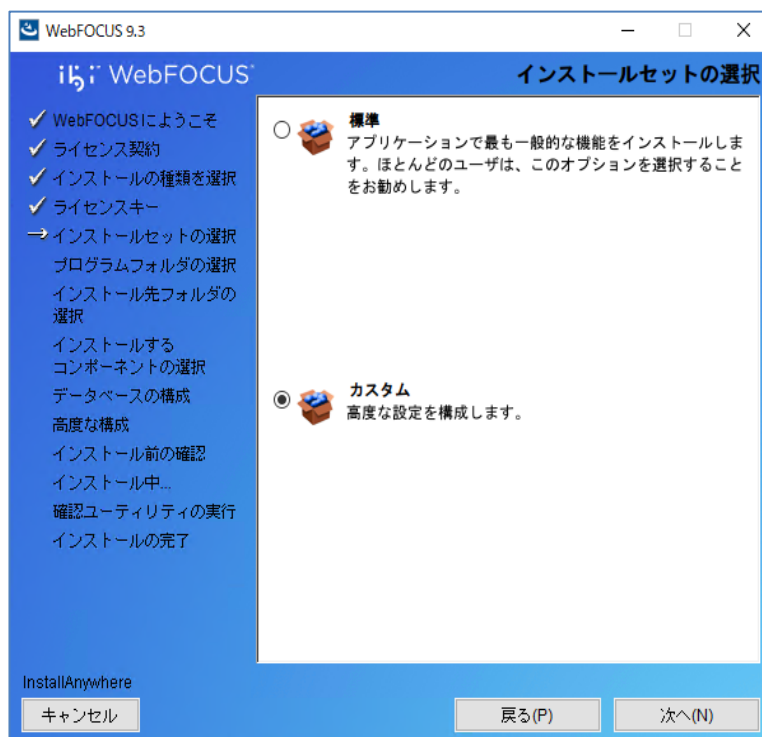
3. 「WebFOCUS 9.3 によるこそ」画面で、「次へ」をクリックします。



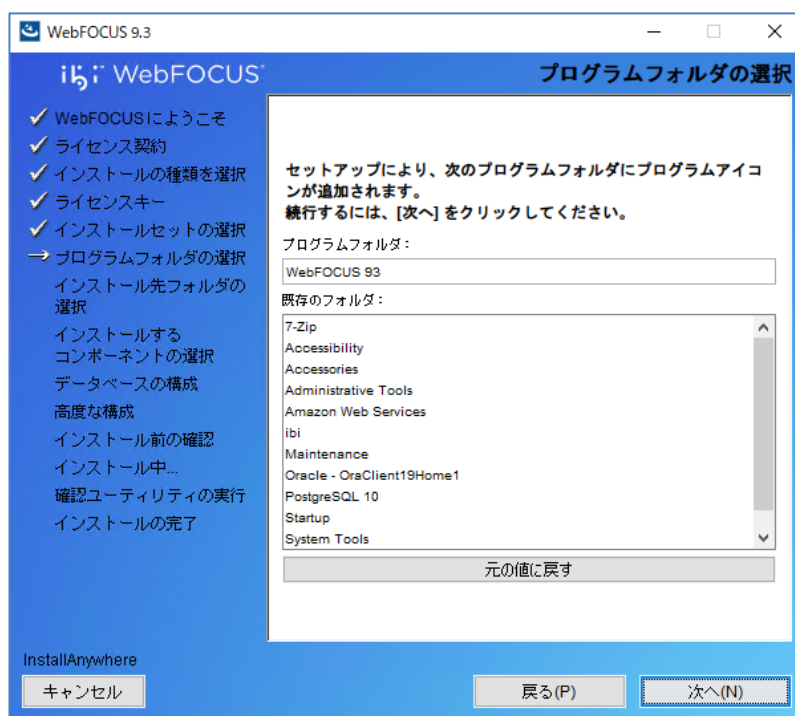
4. 「ライセンス契約」画面で、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



5. 「インストールセットの選択」画面で、「カスタム」のラジオボタンを選択し、「次へ」をクリックします。

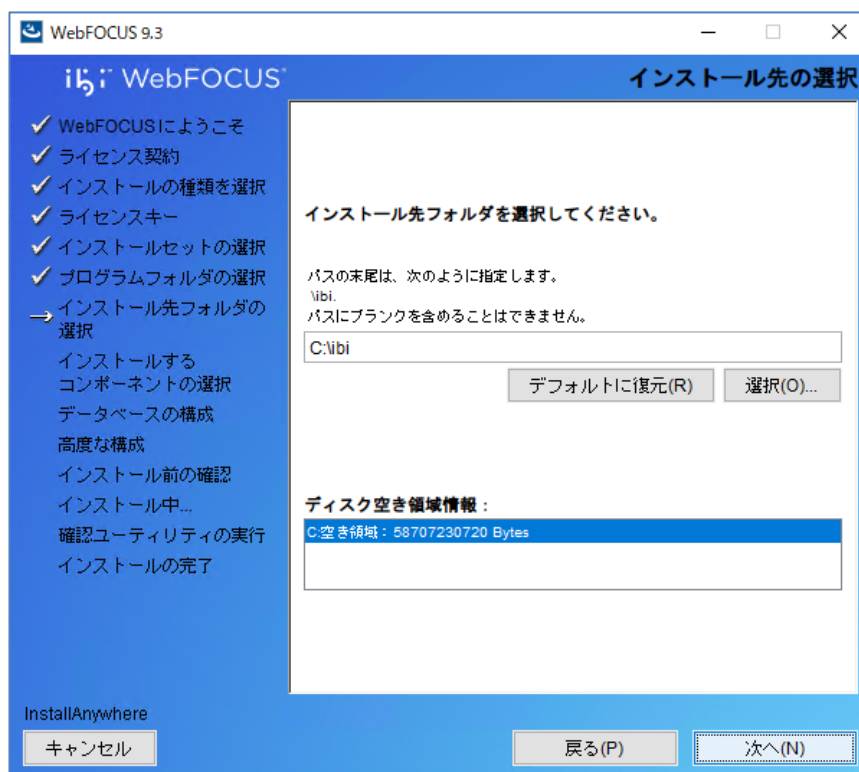


6. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



7. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ	-	C:\ibi	※要件に合わせて変更可



8. 「インストールするコンポーネントの選択」画面で、下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
WebFOCUS	チェック	-	
メールサーバホスト名	-	localhost	※導入環境に合わせて指定
アプリケーションパスの選択	-	C:\ibi¥apps	※要件に合わせて変更可
ReportCaster Distribution Server	チェック		※ReportCaster を利用 しない場合は外します
Apache Tomcat	チェック	C:\ibi¥tomcat	※要件に合わせて変更可
Derby	チェックしない		※Derby を使用する場合はチェックし、 C:\ibi¥derby を指定
既存データベースの構成	-	使用するリポジトリデータベース を選択	
WebFOCUS リポジトリの構成	チェック		
WebFOCUS 管理者ユーザ名	-	admin	
WebFOCUS 管理者パスワード	-	admin	
Apache Tomcat を スタンドアロンとして構成	チェック		※要件に合わせて変更可
Microsoft IIS 用 Apache Tomcat コネクタ構成	チェックしない		※要件に合わせて変更可

WebFOCUS 9.3

インストールするコンポーネントを選択してください。

以下はインストール可能なコンポーネントの一覧です。

☒ WebFOCUS

メールサーバホスト名: localhost

アプリケーションパスの選択: C:\ibi¥apps

デフォルトに復元(R) 選択(O)...

☒ ReportCaster Distribution Server

☒ Apache Tomcat 9.0.85 C:\ibi¥tomcat

デフォルトに復元(R) 選択(O)...

☐ Derby 10.15.2.0

既存データベースの構成: Oracle

データベースが実行中の必要があります。データベースが停止中の場合は、開始してください。

WebFOCUS リポジトリの構成: ☒ WebFOCUS リポジトリの作成 (既存のテーブルは削除されません。)

WebFOCUS 管理者認証情報

ユーザ名: admin

パスワード: ●●●●●

パスワードの確認: ●●●●●

Tomcat の構成:

☒ Apache Tomcat 9.0.85 をスタンドアロンとして構成

☐ Microsoft IIS 用 Apache Tomcat 9.0.85 コネクタ構成

InstallAnywhere

キャンセル 戻る(P) 次へ(N)

9. データベースの構成画面で下記のように入力し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
データベースサーバノード	-	データベースのホスト名 または IP アドレス	※導入環境に合わせて指定
ポート	-	データベースの TCP ポート	※導入環境に合わせて指定
ユーザ ID	-	データベースのオーナーID	※導入環境に合わせて指定
パスワード	-	データベースのオーナーID パスワード	※導入環境に合わせて指定
JDBC ドライバ	-	例) oracle.jdbc.OracleDriver などデフォルト設定値を使用	※変更しないでください
JDBC パス	-	利用する jdbc ドライバの パス	※導入環境に合わせて指定

データベースの種類により、上記に加え SID 名、データベース名、データベース URL 等を設定する必要があります。

WebFOCUS 9.3

データベースの構成 -Oracle

- ✓ WebFOCUS1によるこそ
- ✓ ライセンス契約
- ✓ インストールの種類を選択
- ✓ ライセンスキー
- ✓ インストールセットの選択
- ✓ プログラムフォルダの選択
- ✓ インストール先フォルダの選択
- ✓ インストールするコンポーネントの選択
- ⇒ データベースの構成
 - 高度な構成
 - インストール前の確認
 - インストール中...
 - 確認ユーティリティの実行
 - インストールの完了

データベースサーバノード: dbserver

ポート: 1521

ユーザ ID: WF

パスワード: ●●●●●●

ORASID: orcl

JDBC ドライバ: oracle.jdbc.OracleDriver

JDBC パス: C:\lib\jdbc\ojdbc9.jar
参照...

InstallAnywhere

キャンセル 戻る(P) 次へ(N)

10.「高度な構成」画面で下記のように入力し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
WebFOCUS アプリケーション コンテキスト	-	ibi_apps	※変更しないでください
WebFOCUS Reporting Server ホスト	-	localhost	※要件に合わせて変更可
WebFOCUS Reporting Server ポート	-	8120	※要件に合わせて変更可
Distribution Server ホスト	-	localhost	※要件に合わせて変更可
Distribution Server ポート	-	8200	※要件に合わせて変更可
Distribution Server の開始	チェックしない		※要件に合わせて変更可
Tomcat HTTP ポート	-	8080	※要件に合わせて変更可
Tomcat サーバシャットダウン ポート	-	8005	※要件に合わせて変更可
Tomcat AJP ポート	-	8009	※要件に合わせて変更可
Search Server ポート	-	8983	※要件に合わせて変更可

WebFOCUS 9.3 高度な構成

- ✓ WebFOCUS によるこそ
- ✓ ライセンス契約
- ✓ インストールの種類を選択
- ✓ ライセンスキー
- ✓ インストールセットの選択
- ✓ プログラムフォルダの選択
- ✓ インストール先フォルダの選択
- ✓ インストールするコンポーネントの選択
- ✓ データベースの構成
- ⇒ 高度な構成
 - インストール前の確認
 - インストール中...
 - 確認ユーティリティの実行
 - インストールの完了

Web サーバ/Application Server のエイリアスとコンテキストルートの設定:

WebFOCUS アプリケーションコンテキスト: ibi_apps

WebFOCUS Reporting Server 情報:

WebFOCUS Reporting Server ホスト: localhost

WebFOCUS Reporting Server ポート: 8120

WebFOCUS ReportCaster 情報:

Distribution Server ホスト: localhost

Distribution Server ポート: 8200

☒ Distribution Server の開始

Web サーバ/Application Server ポート:

Tomcat HTTP ポート: 8080

Tomcat サーバシャットダウンポート: 8005 Tomcat AJP ポート: 8009

WebFOCUS Search Server:

Search Server ポート: 8983

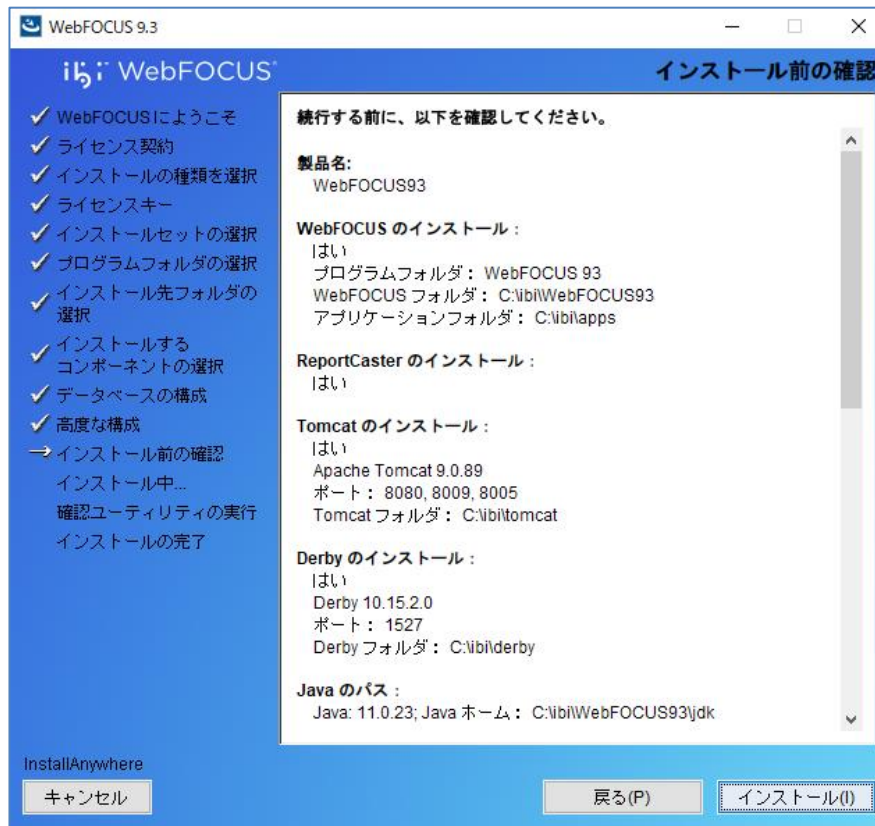
WebFOCUS リポジトリ情報:

データベース名: WebFOCUS93 ポート: 1527

InstallAnywhere

キャンセル 戻る(P) 次へ(N)

11. 「インストール前の確認」ウィンドウが開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。



12. インストールの完了後、WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster、Search Server のサービスを開始します。

13. Application Server と Web サーバのサービスを開始します。

以上で WebFOCUS Client のインストールは終了です。

通貨記号と日付の日本語表示設定

通貨記号(円)の設定、日付の日本語表示設定

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。
2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明：

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

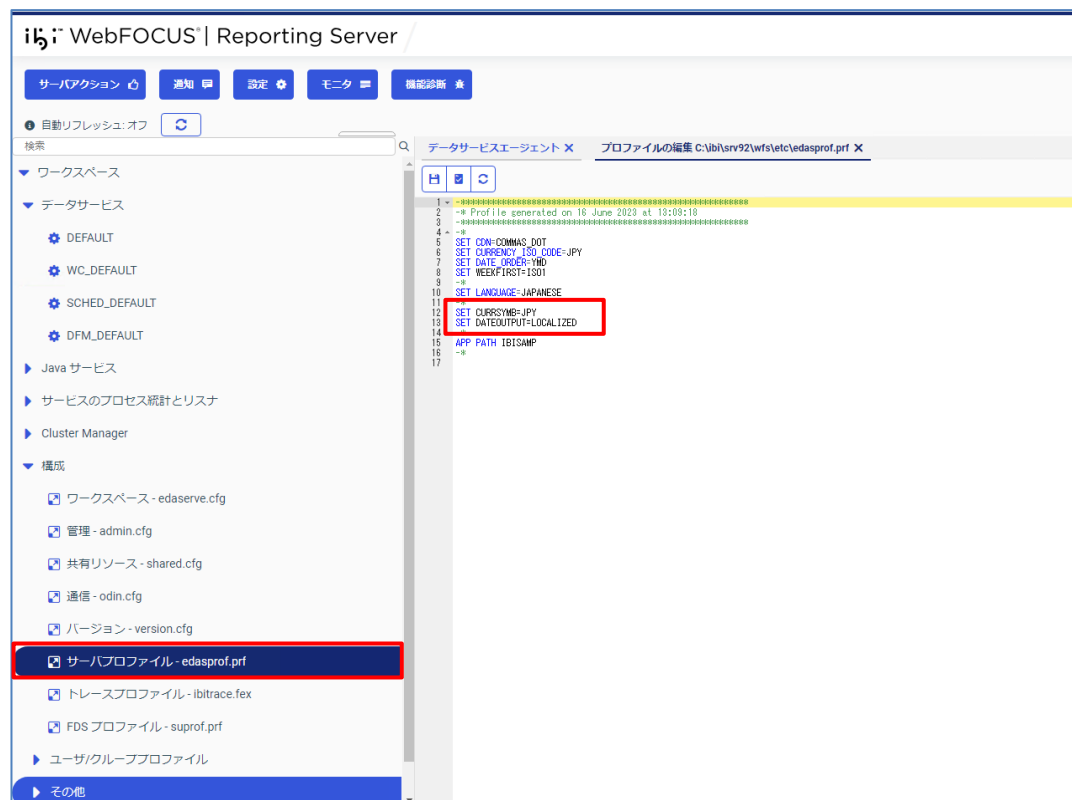
3. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリックし、[編集]を選択します。
4. 表示されるプロフィールの編集画面で、以下の 2 行の SET コマンドを指定し、[保存]ボタンをクリックします。
 SET CURRSYMB=JPY
 SET DATEOUTPUT=LOCALIZED

補足：

OS のシステムロケールが日本語に設定されている場合に WebFOCUS Reporting Server のインストール時に [システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成]を選択すると以下の設定が自動で設定されます。

SET LANGUAGE=JAPANESE
 SET CDN=COMMAS_DOT
 SET CURRENCY_ISO_CODE=JPY
 SET DATE_ORDER=YMD
 SET WEEKFIRST=ISO1

サーバプロファイル - edasprof.prf に上記の設定が無い場合は、上記の SET コマンドを指定してください。



以上で通貨記号と日付の日本語表示設定は終了です。

WebFOCUS の Unicode 構成

【事前確認】

WebFOCUS を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

WebFOCUS Reporting Server の CODE_PAGE の変更

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

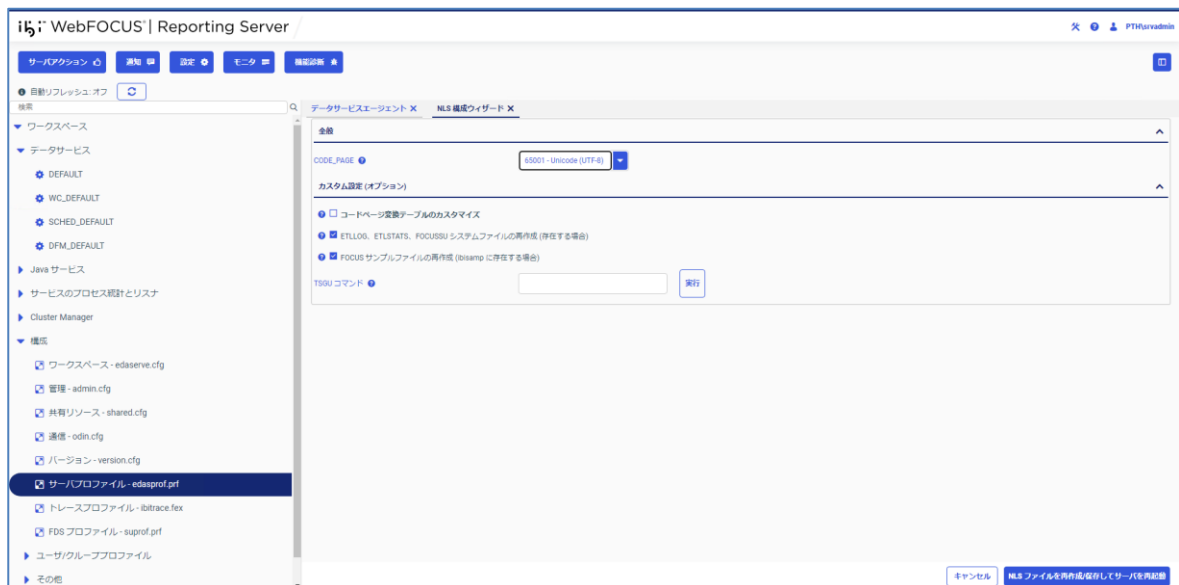
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面上部の [設定] - [LOCALE] - [構成ウィザード]を選択します。
3. CODE_PAGE プルダウンリストから[65001-Unicode(UTF-8)]を選択します。
4. [NLS ファイルを再作成/保存してサーバを再起動]をクリックします。



WebFOCUS Client の CODE_PAGE の変更

1. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

`http://hostname:port/ibi_apps/admin`

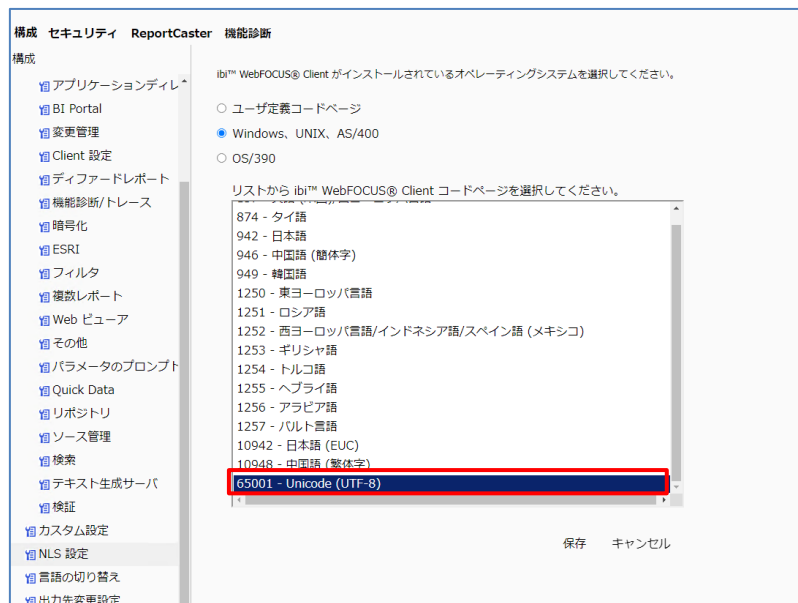
説明：

`hostname:port`

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは `hostname:8080` です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

2. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。
管理コンソールが開きます。
3. メニューから[アプリケーションの設定] - [NLS 設定]を選択します。
4. コードページ[65001-Unicode(UTF-8)]を選択し、[保存]をクリックします。



5. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。

Tomcat の Unicode 構成

Tomcat を Unicode で起動するために以下の設定を行ってください。

注意： 以下は、WebFOCUS Client と共にインストールされた Tomcat 9.0.105 での手順です。

1. [スタートメニュー] - [すべてのプログラム] - [ibi] - [Tomcat]の[Tomcat 構成ユーティリティ]を選択します。
2. [Java]タブを選択します。
3. [Java options:]に以下のコマンドを指定します。

`-Dfile.encoding=UTF8`

4. [適用]をクリックし、Tomcat を再起動します。

以上で WebFOCUS の Unicode 構成は終了です。

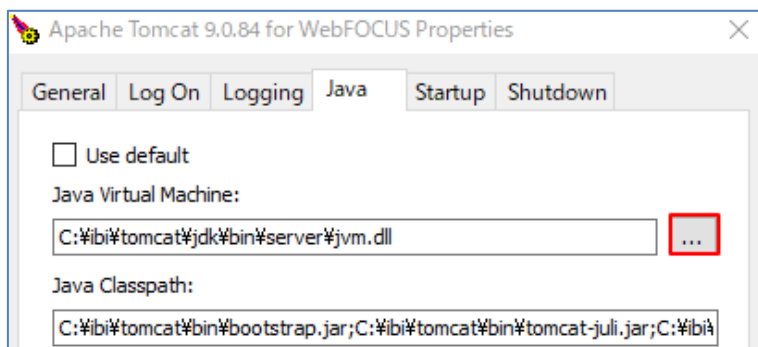
Tomcat の JVM 参照先の変更

Java Virtual Machine の参照先を以下のように変更します。詳細は、本資料 P.39 の『Java について』をご確認ください。

<変更前> drive:¥ibi¥tomcat¥jdk¥bin¥server¥jvm.dll

<変更後> drive:¥ibi¥WebFOCUS93¥jdk¥bin¥server¥jvm.dll

1. Tomcat を停止します。
2. [スタートメニュー] - [すべてのプログラム] - [ibi] - [Tomcat]の[Tomcat 構成ユーティリティ]を選択します。
3. [Tomcat 構成ユーティリティ]画面で[Java]タブを選択し、[Java Virtual Machine]にある[...]を選択します。



4. 以下の参照先を指定します。
drive:¥ibi¥WebFOCUS93¥jdk¥bin¥server¥jvm.dll
5. [OK]をクリックし、[Tomcat 構成ユーティリティ]画面を閉じ、Tomcat を起動します。

以上で Tomcat の JVM 参照先の変更は終了です。

ReportCaster の Unicode 構成

【事前確認】

ReportCaster を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。
Distribution Server をコマンドラインから起動するか、サービスから起動するかで設定方法が異なります。

Distribution Server をコマンドラインから起動する場合

1. drive:¥ibi¥WebFOCUS93¥ReportCaster¥bin¥schbkr.bat をテキストで開きます。
2. 以下の設定を追加します。

`-Dfile.encoding=UTF8`

指定例：

```
call %~dp0¥classpath.bat
"C:¥ibi¥WebFOCUS93¥jdk¥bin¥java" -Dfile.encoding=UTF8
-Dreportcaster.home=%DSINSTALL%
-Dlog4j.configurationFile=file:///¥DSINSTALL%/cfg/log4j2.xml -Dcaster.service=false
-cp "%CLASSPATH%" ibi.broker.SCHScheduler ¥DSINSTALL% ¥CMD_LINE_ARGS%
pause
```

3. 設定を追加後、ファイルを保存して閉じます。
4. Application Server を再起動します。
5. [スタート] – [すべてのプログラム] – [ibi] – [WebFOCUS 93] – [ReportCaster] – [Distribution Server] – [Distribution Server の開始]を選択します。

Distribution Server をサービスから起動する場合

1. [スタート]メニューをクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行]を選択します。
3. [regedit]と入力し[OK]をクリックします。
レジストリエディターが開きます。
4. 以下のキーを右クリックし、[修正]を選択します。
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Apache Software Foundation¥
Procrun 2.0¥WF93¥Parameters¥Java¥Options]
5. 以下の設定を追加し、[OK] をクリックします。
`-Dfile.encoding=UTF8`
6. Application Server を再起動します。
7. サービスを開き[WebFOCUS ReportCaster WF93]を右クリックし、[開始]を選択します。

以上で ReportCaster の Unicode 構成は終了です。

引き続き「3 章 新規/更新インストール共通手順」を確認し、必要な設定を実施してください。

2章 更新インストール手順

すでにインストール済みの WebFOCUS Reporting Server および WebFOCUS Client を更新インストールする場合は以下の手順を実施してください。

また、WebFOCUS9.2.x 以前のバージョンから更新インストールを行う場合、WebFOCUS のインストールディレクトリ名は更新されません。WebFOCUS の動作上問題はありませんが、WebFOCUS 9.3.x の標準のインストールディレクトリ名でインストールを行いたい場合は、新規インストールを行ってください。

更新前フォルダ名の例：C:\ibi\WebFOCUS92、C:\ibi\srv92

更新インストールを行う前に、障害にそなえて WebFOCUS を構成しているシステムのイメージバックアップ、およびリポジトリ（WebFOCUS Client と Resource Analyzer のリポジトリ）のバックアップをあらかじめ取得してください。万が一、更新インストール処理に失敗した場合、もしくは更新インストール後になんらかの障害が発生した場合は、システムのイメージバックアップから切り戻しを行ってください。

システムのイメージバックアップを取得できない場合は、本番環境とは別の検証用の環境で正常に適用できるか十分な確認を行ってから本番環境に適用することをご検討ください。

バージョン 9.0.0 以降、WebFOCUS のシステムファイル構成に ibi_html ディレクトリ

（drive:\ibi\WebFOCUS\release\WebFOCUS）は含まれません（ここで、release はインストールされた WebFOCUS のリリース番号です）。ibi_html ディレクトリにカスタムスタイルシートファイルまたはその他ファイルが格納されている場合は、WebFOCUS バージョン 9.0.0 以降のインストールまたはアップグレード前に、これらのファイルをこのディレクトリから WebFOCUS リポジトリにアップロードする必要があります。

WebFOCUS Reporting Server の更新インストール

【事前確認】

WebFOCUS Reporting Server を更新インストールする前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

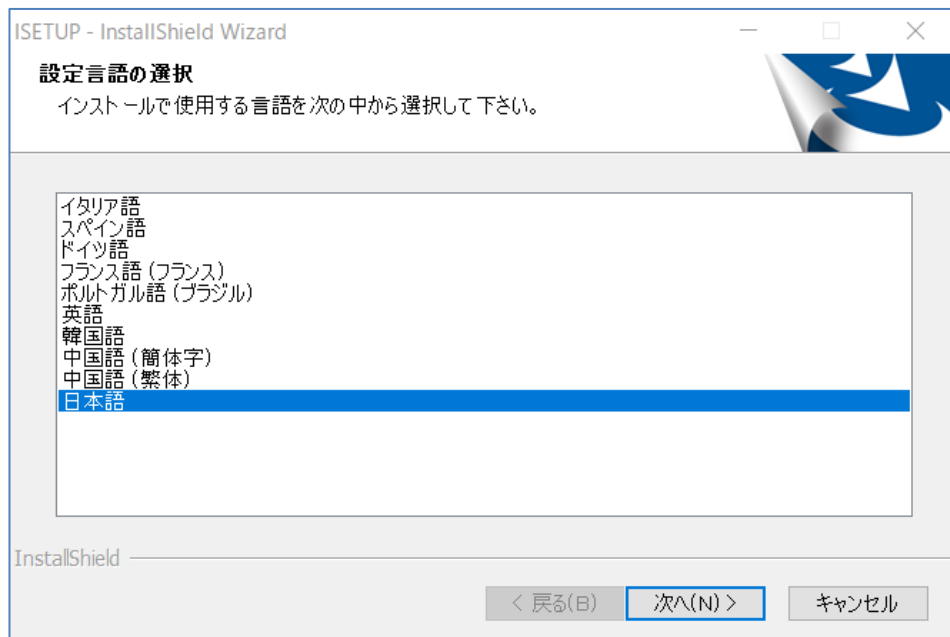
【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例：C:\ibi\srv93

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールを行ってください。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを停止します。
2. **ibi\Server** ディレクトリにある **setup.exe** をダブルクリックします。

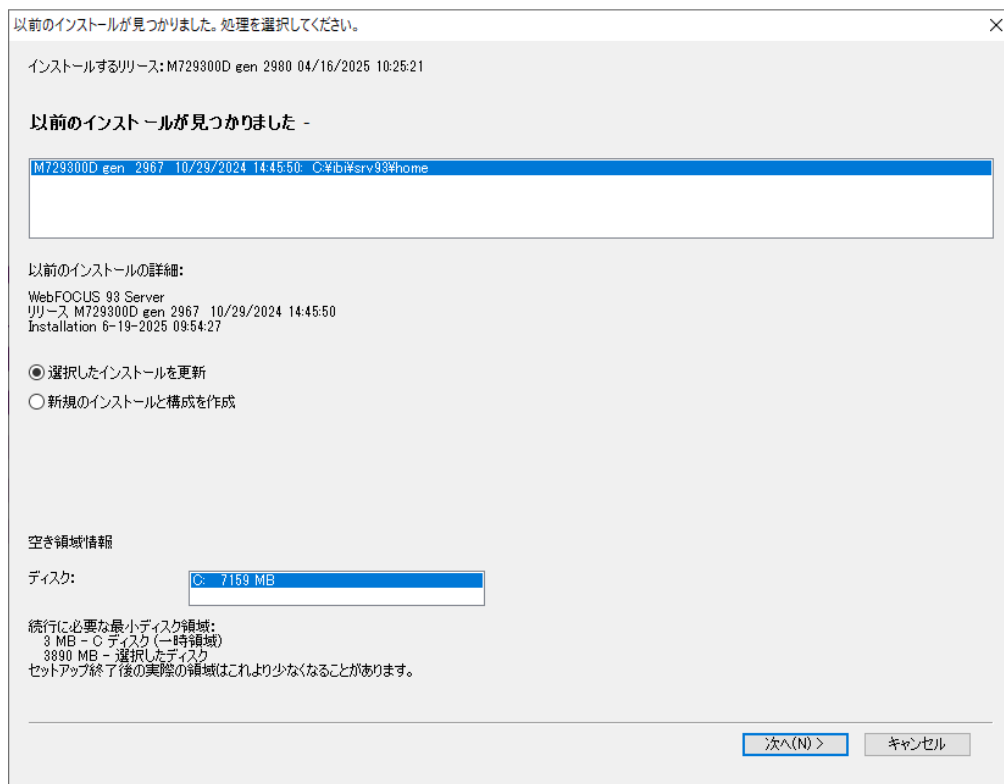
3. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「次へ」をクリックします。



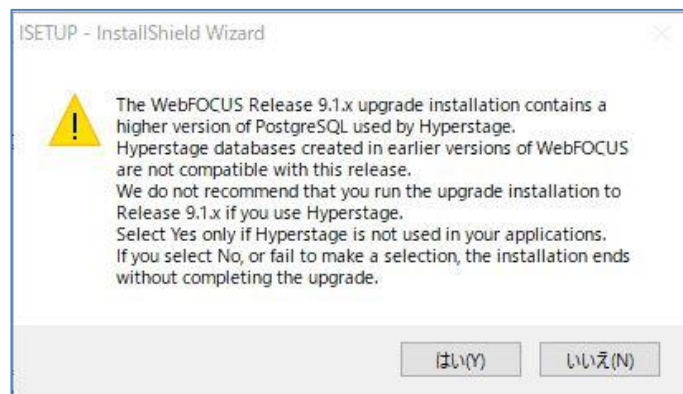
4. 「使用権許諾」画面が表示されますので、使用許諾契約の条項を下部までスクロールし、「はい」をクリックします。



5. 以下の画面が表示されたら、【事前確認】で確認した Reporting Server インストールディレクトリ内の対象サーバを選択し、「次へ」を選択します。画面上に「顧客 ID を入力」が表示された場合には入力してください。



6. 以下のメッセージが表示された場合は「はい」を選択します。



7. メッセージに従って更新インストールを完了します。

ライセンスファイル（license.txt）の適用

WebFOCUS V9.3.0 より、WebFOCUS Reporting Server を利用するために、顧客 ID とライセンスファイルの適用が必要となりました。詳細は『WebFOCUS リリースノート_アシスト追補版』をご確認ください。

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを停止します。
2. 以下のディレクトリに、入手したライセンスファイル（license.txt）を配置します。

ライセンスファイルの配置場所：

drive:¥ibi¥srv93¥wfs¥bin

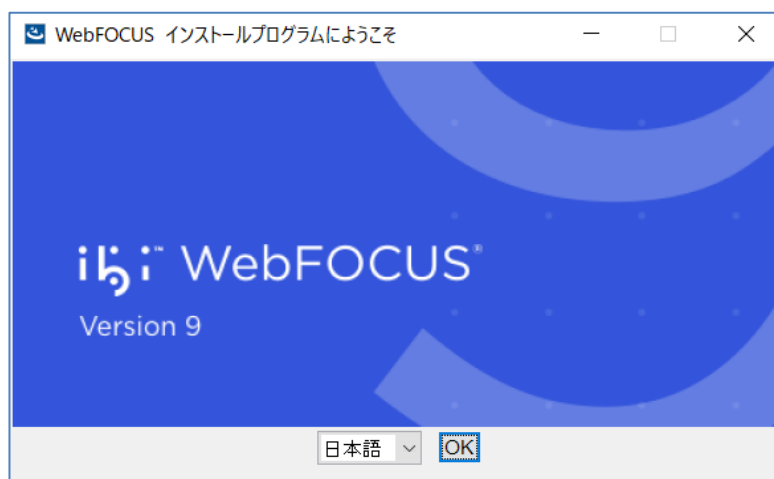
3. WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。

以上で WebFOCUS Reporting Server の更新は終了です。

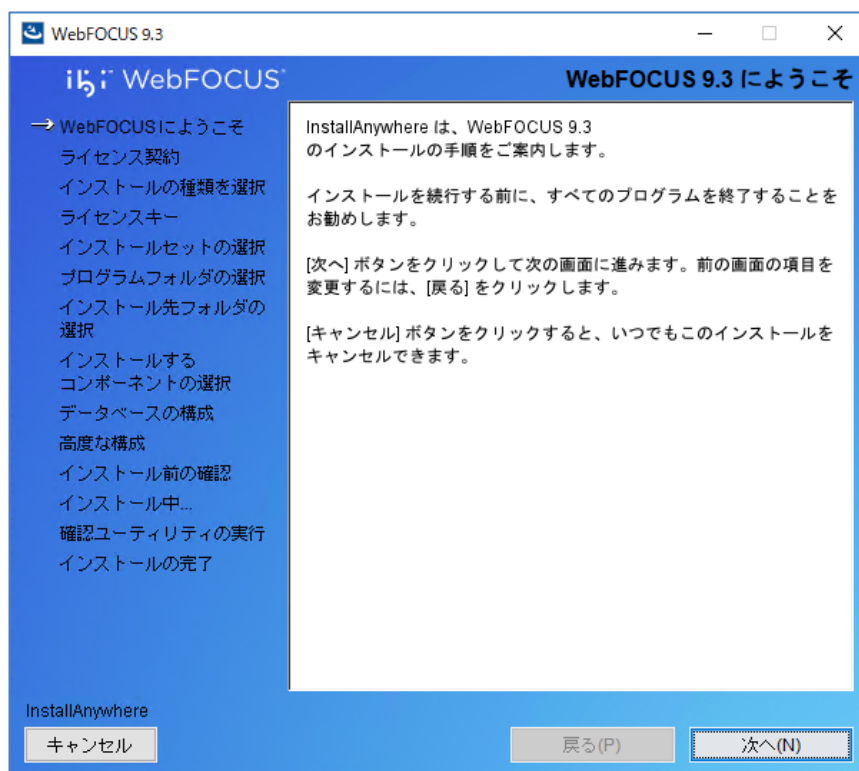
WebFOCUS Client の更新インストール

以下の手順で WebFOCUS Client を更新インストールします

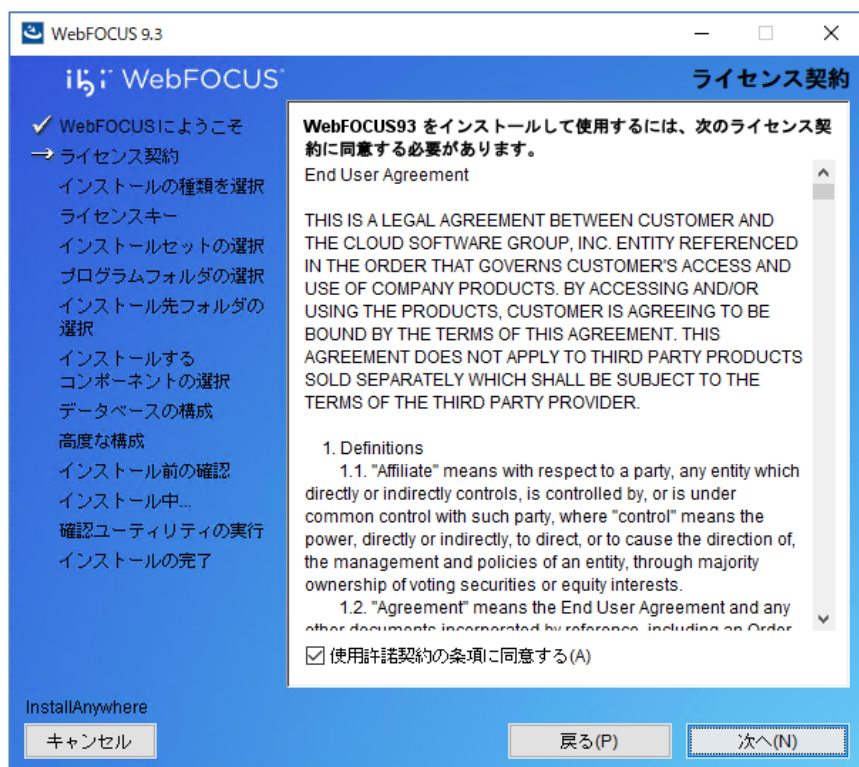
1. Application Server と Web サーバのサービスを停止します。
2. WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster、Search Server のサービスを停止します。
3. ibi¥Client ディレクトリにある [IBI_wf-wf_9.3.*_win_x86_64.exe](#) をダブルクリックします。
※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります。
4. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



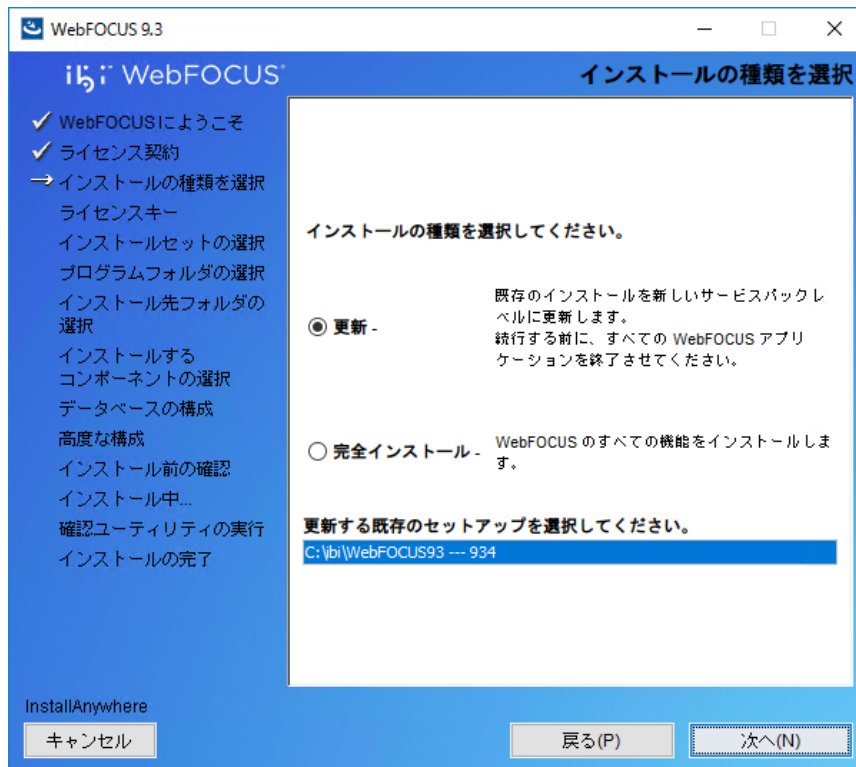
5. 「WebFOCUS 9.3 によろこ」画面が開きますので、「次へ」をクリックします。



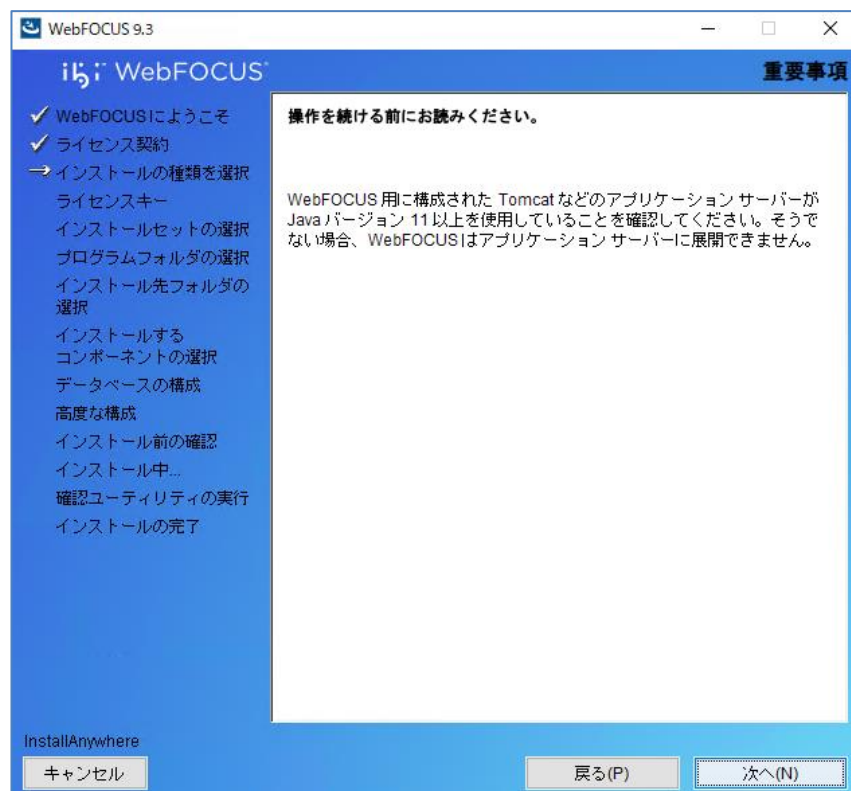
6. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックし、「次へ」をクリックします。



7. 「インストールの種類を選択」画面が開きますので、「更新」のラジオボタンを選択し「インストール」をクリックします。

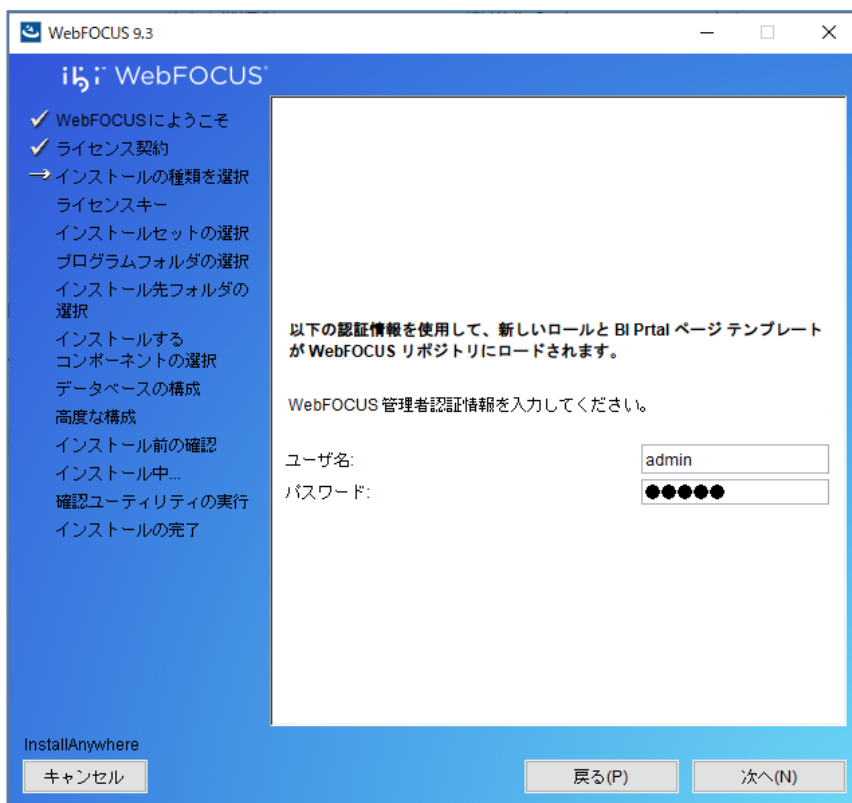


8. 「重要事項」画面が開きますので、「次へ」をクリックします。



9. WebFOCUS 管理者認証情報を入力し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
ユーザ名	-	admin	※有効な管理者のユーザ名を入力してください
パスワード	-	admin	※有効な管理者のパスワードを入力してください
Solr インデックス再作成を実行するには、以下のチェックをオンにしてください。	チェックしない		※画面に表示された場合には設定してください ※要件に合わせて変更可



WebFOCUS 9.3

以下の認証情報を使用して、新しいロールと BI Portal ページテンプレートが WebFOCUS リポジトリにロードされます。

WebFOCUS 管理者認証情報を入力してください。

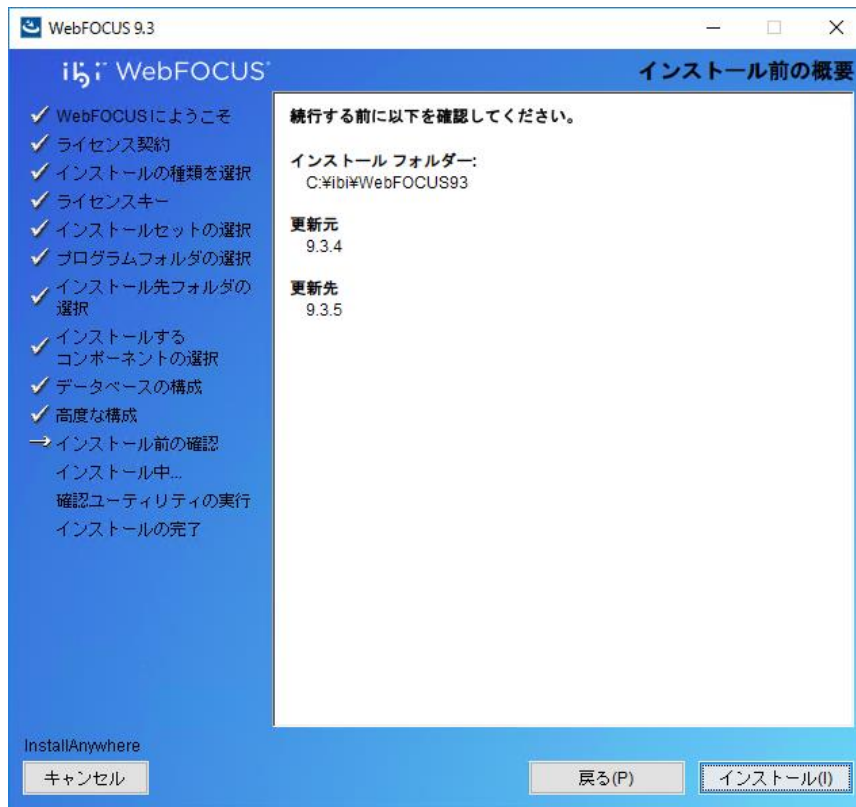
ユーザ名: admin

パスワード: ●●●●●●

インストールの完了

キャンセル 戻る(P) 次へ(N)

10. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。更新インストールが開始されます。



11. 更新インストールの完了後、WebFOCUS Reporting Server、ReportCaster、Search Server のサービスを開始します

12. Application Server と Web サーバのサービスを開始します。

以上で WebFOCUS Client の更新は終了です。

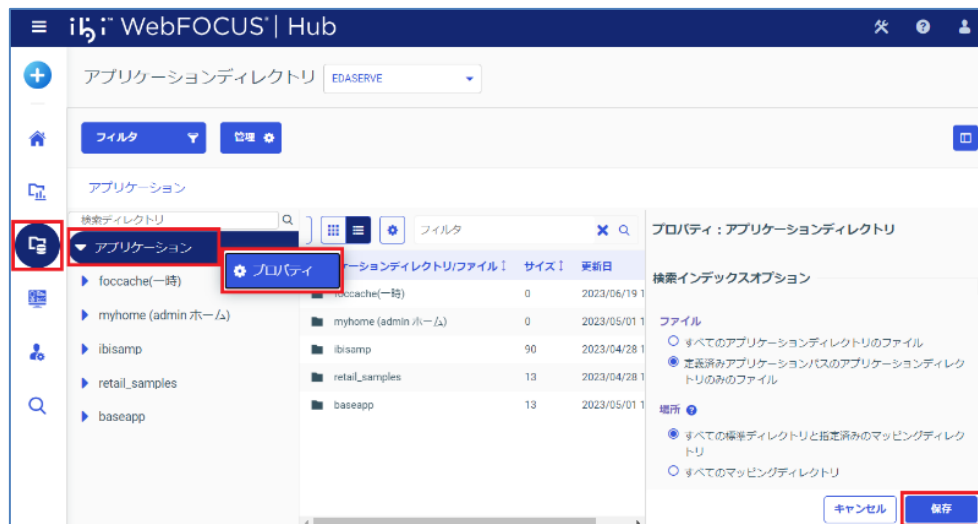
既存データとコンテンツのインデックス化

WebFOCUS 8.2.06 以前からアップグレードした場合、登録されたデータやコンテンツを 9.3.x では検索できません。検索対象とするためには、既存データとコンテンツのインデックス化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. Application Server と Web サーバ、WebFOCUS Reporting Server のサービスを起動します。
2. WebFOCUS Hub に管理者でログインし、ワークスペースの画面から管理者ビューに切り替えます。



3. データのインデックス作成を行います。画面左のアプリケーションディレクトリアイコンを選択し、[アプリケーション] の右クリックメニューから [プロパティ] を選択します。表示された [プロパティ：アプリケーションディレクトリ] で検索インデックスオプションを選択し、[保存] をクリックします。



4. コンテンツのインデックス作成行います。画面左のワークスペースアイコンを選択し、[ワークスペース] の右クリックメニューから[プロパティ] を選択します。表示された[プロパティ ワークスペース] で[検索インデックスのリフレッシュ] をクリックします。



以上で既存データとコンテンツのインデックス化は終了です。

引き続き「3 章 新規/更新インストール共通手順」を確認し、必要な設定を実施してください。

3章 新規/更新インストール共通手順

新規インストール、または更新インストールを実施後、以下の手順を実施してください。

WebFOCUS Client パッチの適用

【事前確認】

パッチを適用する前に WebFOCUS をインストールしたディレクトリを確認してください。

例：C:¥ibi

【手順】

※WebFOCUS 9.2.x以前のバージョンから更新インストールする場合は、hf001.bat 内に記述されているディレクトリ名を現行のディレクトリ名に書き換える必要があります。

変更前の例：mkdir "%InstallRoot%¥ibi¥WebFOCUS93¥backups¥931_HF-001"

変更後の例：mkdir "%InstallRoot%¥ibi¥WebFOCUS92¥backups¥931_HF-001"

以下の手順で WebFOCUS Client パッチの適用を行ってください。

1. Application Server、ReportCaster のサービスを停止します。
2. インストールモジュール配下の HF フォルダ内にある HF001 フォルダを WebFOCUS インストールディレクトリ直下にコピーします。
3. drive:¥ibi¥HF001¥hf001.bat をダブルクリックし、実行します。
4. 実行すると、WebFOCUS Client インストールディレクトリの選択が求められます。WebFOCUS をインストールしたドライブを入力し、エンターキーを押下してください。
5. インストールドライブを入力してください（例：C:）：
6. パッチ実行後、Application Server、ReportCaster のサービスを起動します。
7. ブラウザのキャッシュを削除します。

注意：パッチ適用前ファイルはバックアップフォルダ、ibi¥WebFOCUS93¥backups に保存されます。

以上で WebFOCUS Client パッチの適用は終了です。

WebFOCUS Client OpenJDK の適用

【事前確認】

OpenJDK は WebFOCUS Client をインストールしたディレクトリに含まれる Oracle Java SE に置き換える形で適用します。OpenJDK を適用する前に WebFOCUS Client をインストールしたドライブ、ディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Client インストールディレクトリ:

例 : C:\ibi\WebFOCUS93

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

java

OpenJDK の適用手順

バッチファイルの編集

※WebFOCUS 9.2.x以前のバージョンから更新インストールした場合は、OpenJDK 適用バッチファイル、ojdk.bat 内に記述されているディレクトリ名を現行のディレクトリ名に書き換える必要があります。新規インストールの場合は編集不要です。

変更前の例 : XCOPY /E /H /C /I /Y "%in_pass%jdk" "%out_pass%\WebFOCUS93\jdk"

変更後の例 : XCOPY /E /H /C /I /Y "%in_pass%jdk" "%out_pass%\WebFOCUS92\jdk"

バッチファイルの実行

1. Application Server、ReportCaster、Search Server、Reporting Server、Derby（リポジトリデータベースとして Derby を使用している場合）のサービスを停止します。
2. インストールモジュール配下の java フォルダを WebFOCUS インストールディレクトリ直下に コピーします。
3. drive:\ibi\java\ojdk.bat を右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
4. 実行すると、WebFOCUS Client インストールディレクトリの選択が求められます。WebFOCUS をインストールしたドライブを入力し、エンターキーを押下してください。

インストールドライブを入力してください（例: C:）:

5. バッチファイル実行後、正常に OpenJDK が適用された場合、以下のメッセージが表示されます。

Java を OpenJDK (Temurin) に置き換えました。

openjdk version "11.0.28" 2025-01-21

OpenJDK Runtime Environment Temurin-11.0.28+6 (build 11.0.28+6)

6. Application Server、ReportCaster、Search Server、Reporting Server、Derby（リポジトリデータベースとして Derby を使用している場合）のサービスを起動します。
7. ブラウザのキャッシュを削除します。

注意 : OpenJDK 適用前ファイル（Oracle Java SE）はバックアップフォルダ、ibi\WebFOCUS93\jdk_bk に保存されます。

以上で、OpenJDK の適用は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ:

例 : C:\ibi\srv93

注意 : 日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

ibi\Server\patch_93s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

パッチファイルの編集

※WebFOCUS9.2.x以前のバージョンから9.3.xへ更新インストールする場合のみ実施してください。新規インストールの場合は編集不要です。

1. 文字コード環境(SJIS、Unicode)に該当するパッチファイルを右クリックし、[編集]をクリックします。

(SJIS の場合) [ra_sjis.bat](#)

(Unicode の場合) [ra_utf8.bat](#)

2. 以下の記述に変更します。

例 :

COPY /Y %in_pass%utf8¥catalog¥rm¥* %out_pass%¥[srv92](#)¥home¥catalog¥rm

パッチファイルの実行

1. 文字コード環境(SJIS, Unicode)に該当するパッチファイルを右クリックし、[管理者として実行]を選択します。

(SJIS の場合) [ra_sjis.bat](#)

(Unicode の場合) [ra_utf8.bat](#)

2. 表示されるプロンプトで、WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを選択し、Enter キーを押します。

Resource Analyzer の構成

注意： WebFOCUS バージョン 9 以降、Resource Analyzer の構成時には、「Resource Governor」と「Resource Analyzer」を選択することができますが、「Resource Analyzer」を選択してください。

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

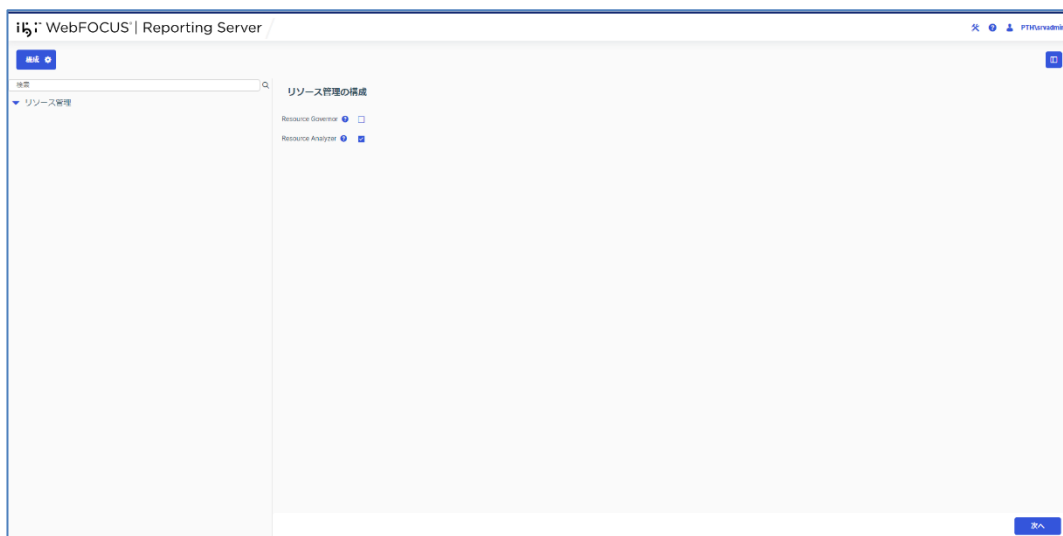
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 画面上部のツールメニューから[リソース管理]を選択します。
3. [構成]ボタンをクリックします。
4. 「Resource Governor」と「Resource Analyzer」の選択画面が表示されますので、ラジオボタンで「Resource Analyzer」を選択し、以降の設定を行ってください。



以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成は終了です。

設定ファイル (edaserve.cfg) の編集

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

【手順】

1. WebFOCUS Reporting Server のサービスを開始します。

2. Web コンソールにアクセスします。
ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。
`http://hostname:port/`
説明：
hostname
WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。
port
インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です
3. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成]を展開して、[ワークスペース - edaserve.cfg]を右クリックし、[編集]を選択します
4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下のコマンドを指定し、[保存してサーバを再起動]ボタンをクリックします。
`eda_collect_perf=n`

以上で設定ファイル(edaserve.cfg)の編集は終了です。

ReportCaster のレジストリパラメータ設定

WebFOCUS Client を更新インストールした場合、ReportCaster Distribution Server をサービスから起動する際に参照するレジストリの設定情報が初期化されます。レジストリで Java の文字コード、最小ヒープサイズ、最大ヒープサイズ等の設定をしていた場合はパラメータ値を再設定する必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. [スタート]メニューをクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行]を選択します。
3. [regedit]と入力し[OK]をクリックします。
レジストリエディターが開きます。
4. 以下のキーを展開します
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥Apache Software Foundation¥Procrun 2.0¥WFSchbkrSvc93¥Parameters¥Java]
5. [Options](文字コード等)、[JvmMs](最小ヒープサイズ)、[JvmMx](最大ヒープサイズ)等のパラメータを右クリック、[修正]を選択します。値を設定し、[OK] をクリックします。
6. Application Server を再起動します。
7. サービスを開き[WebFOCUS ReportCaster WFSchbkrSvc93]を右クリックし、[開始]を選択します。

以上で ReportCaster のレジストリパラメータ設定は終了です。

WebFOCUS App Studio のインストール

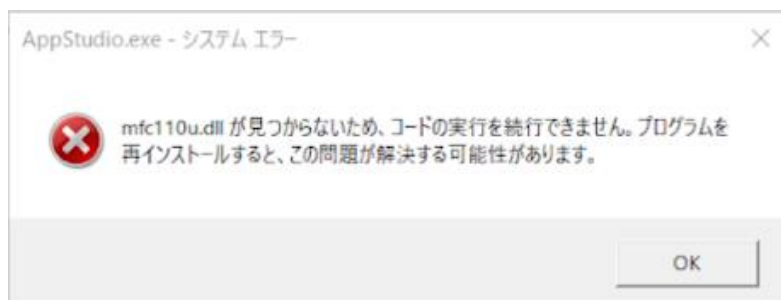
【事前確認】

- WebFOCUS App Studio を新規、または更新インストールします。ただし、WebFOCUS 8.2.06 または 8.2.07 からの更新インストールはできません。同一メジャーバージョンでのみ更新インストールができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® App Studio Installation and Configuration』をご確認ください。
- 新規インストールで以前のバージョンをインストールしている場合、該当バージョンのインストールガイドに従ってアンインストールを行ってください。
- WebFOCUS App Studio は OS の管理者権限を持つユーザでインストールを実施してください。
- WebFOCUS App Studio は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先の選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS App Studio インストールディレクトリ】

例：C:\ibi¥AppStudio93

- WebFOCUS App Studio の稼働には、Microsoft Visual Studio 2012 の Visual C++ ライブラリのランタイムコンポーネントが必要です。WebFOCUS App Studio をインストール後、起動時に以下のメッセージが表示される場合は、マイクロソフトのサイト (<https://www.microsoft.com>) から Visual Studio 2012 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ (X64 版) をダウンロードして、インストールしてください。



【Visual Studio 2012 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ (X64 版) ダウンロード URL】

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30679>

※2025 年 10 月 31 日時点で有効な URL です。今後、変更される可能性があります。

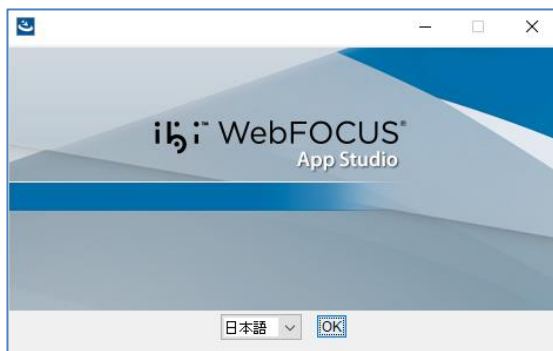
以下の手順で WebFOCUS App Studio のインストールを行ってください。

ibi ディレクトリにある [IBI_wf-as_9.3.*_win_x86_64.exe](#) をダブルクリックします。

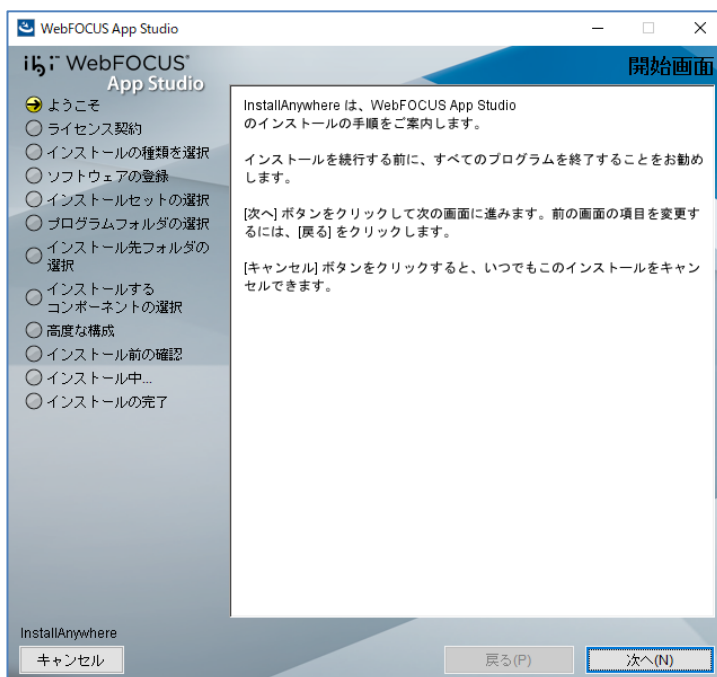
※ インストールモジュールのファイル名は、バージョンにより異なる場合があります。

以下の記載手順は、新規インストールです。更新インストールを実施する場合は、ポップアップ画面の「OK」または「次へ」ボタンをクリックし、インストールを完了させます。

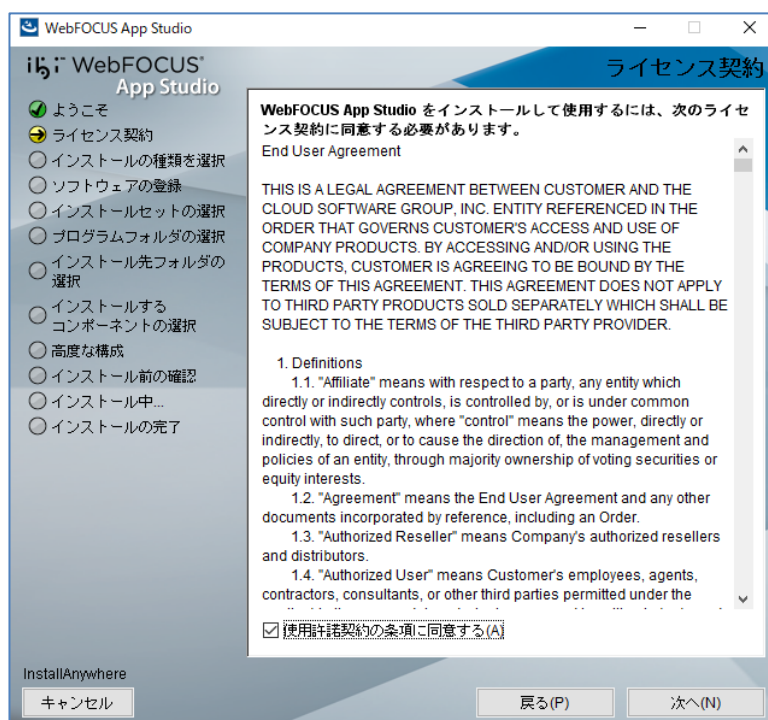
1. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



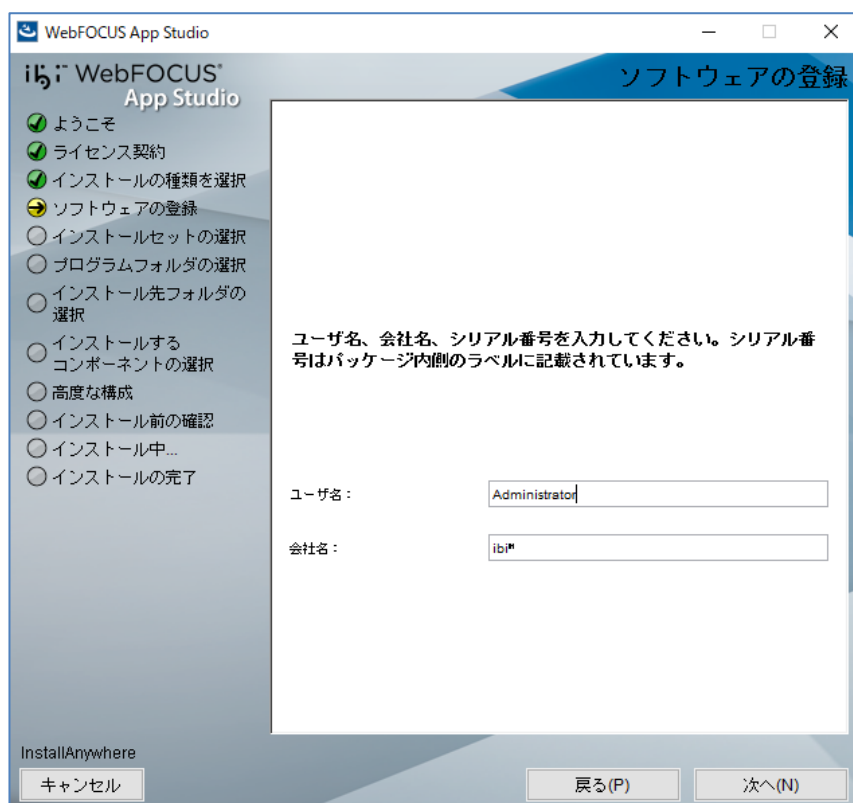
2. インストールの開始画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



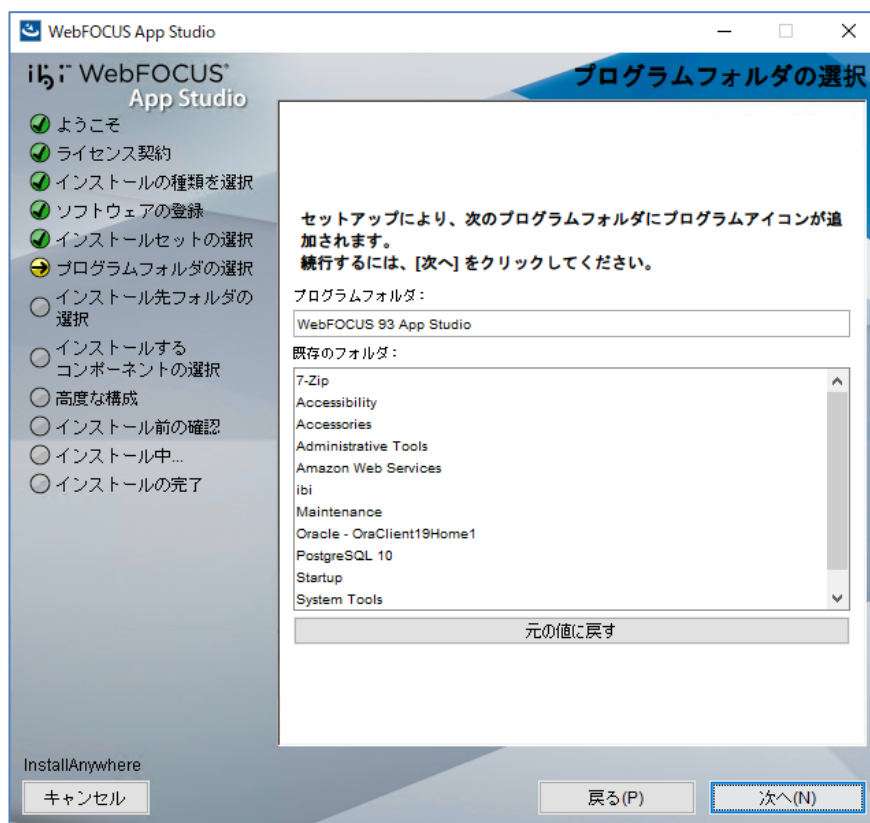
3. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



4. 「ユーザ名」と「会社名」を入力し、「次へ」をクリックします。

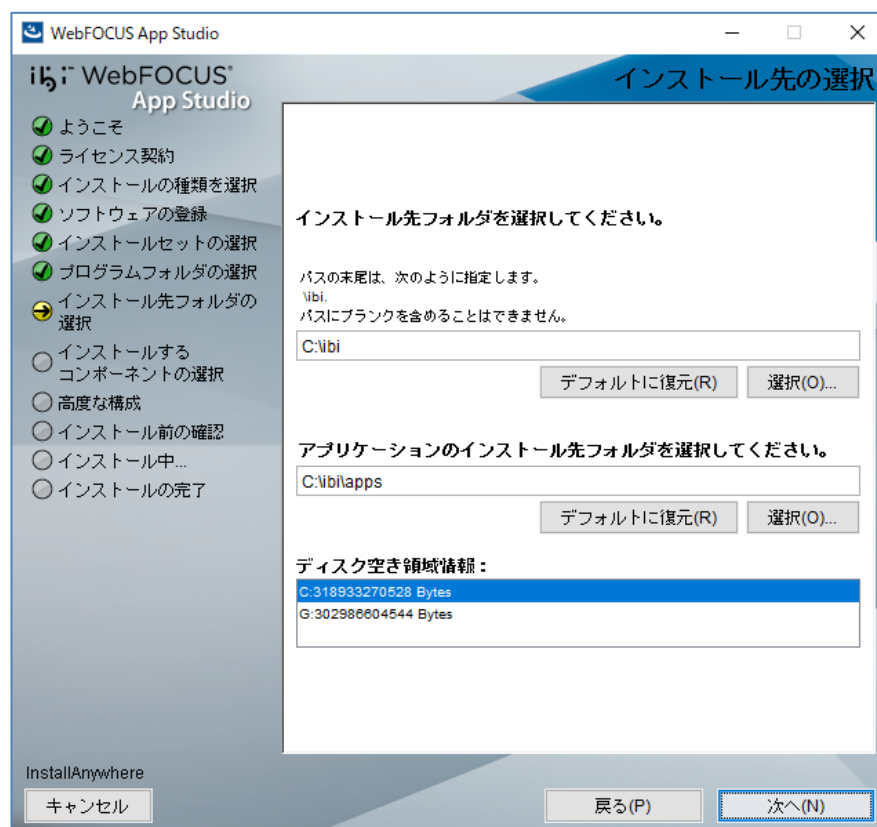


5. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



6. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ		C:\vibi	※要件に合わせて変更可
アプリケーションの インストール先フォルダ		C:\vibi\apps	※要件に合わせて変更可



7. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。

8. 「インストールの完了」画面が開きますので、「完了」をクリックします。

以上で WebFOCUS App Studio のインストールは終了です。

WebFOCUS App Studio OpenJDK の適用

【事前確認】

OpenJDK は WebFOCUS App Studio をインストールしたディレクトリに含まれる Oracle Java SE に置き換える形で適用します。OpenJDK を適用する前に WebFOCUS App Studio をインストールしたドライブ、ディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Client インストールディレクトリ:

例 : C:\ibi\AppStudio93

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ

javaAS

OpenJDK の適用手順

バッチファイルの編集

※WebFOCUS 9.2.x以前のバージョンから更新インストールした場合は、OpenJDK 適用バッチファイル、ojdk.bat 内に記述されているディレクトリ名を現行のディレクトリ名に書き換える必要があります。新規インストールの場合は編集不要です。

変更前の例 : XCOPY /E /H /C /I /Y "%in_pass%jdk" "%out_pass%\AppStudio93\jdk"

変更後の例 : XCOPY /E /H /C /I /Y "%in_pass%jdk" "%out_pass%\AppStudio93\jdk"

バッチファイルの実行

1. インストールモジュール配下の javaAS フォルダを WebFOCUS インストールディレクトリ直下に コピーします。
2. drive:\ibi\javaAS\ojdk.bat を右クリックし、[管理者として実行]を選択します。
3. 実行すると、WebFOCUS App Studio インストールディレクトリの選択が求められます。WebFOCUS をインストールしたドライブを入力し、エンターキーを押下してください。
インストールドライブを入力してください（例: C:）:
4. バッチ実行後、正常に OpenJDK が適用された場合、以下のメッセージが表示されます。
Java を OpenJDK (Temurin) に置き換えました。
openjdk version "11.0.28" 2025-01-21
OpenJDK Runtime Environment Temurin-11.0.28+6 (build 11.0.28+6)
5. ブラウザのキャッシュを削除します。

注意 : OpenJDK 適用前ファイル (Oracle Java SE) はバックアップフォルダ、ibi\AppStudio93\jdk_bk に保存されます。

以上で、OpenJDK の適用は終了です。

インストールモジュールに同梱される Java と Tomcat のバージョンについて

WebFOCUS 9.3.4	OpenJDK	Temurin-11.0.28+6 (11.0.28+6)
	Apache Tomcat	9.0.105

Java について

WebFOCUS Client を新規インストールすると、Oracle Java SE が自動構成されますが、本手順書に従って、OpenJDK に置き換え、構成します。

更新インストールにおいても ibi¥WebFOCUS93¥jdk 配下の Java は Oracle Java SE で構成されるため、同様の手順で OpenJDK に置き換えます。

WebFOCUS 9.3.x では Java 導入先は drive:¥ibi¥WebFOCUS93¥jdk となっています。

WebFOCUS8.2.07.28 より前のバージョンの Java 導入先は drive:¥ibi¥WebFOCUS82¥jre のため、更新インストールを行うと、環境構成ファイル（drive:¥ibi¥srv82¥wfs¥bin¥edaenv.cfg）で以下の記述に変更する必要があります。

JAVA_HOME=C:¥ibi¥WebFOCUS82¥jre

Tomcat について

WebFOCUS Client を新規インストールすると、Tomcat が自動構成されます。

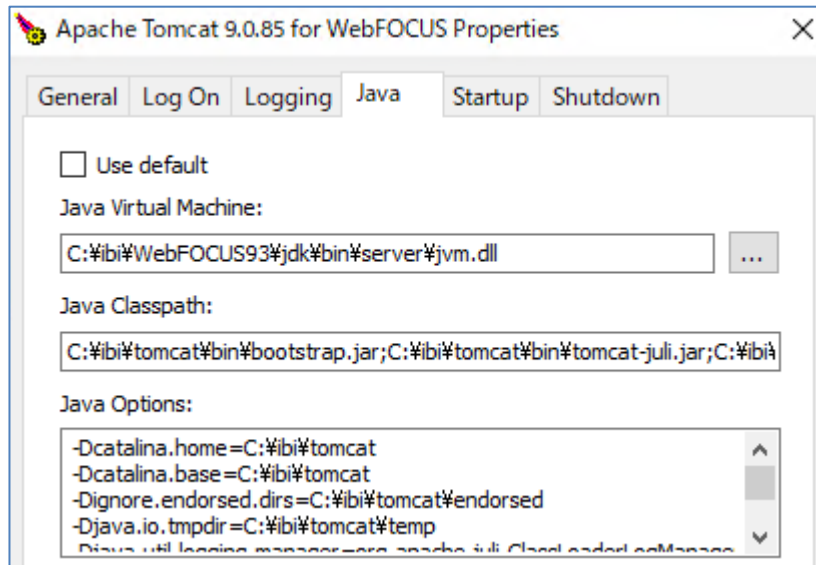
更新インストールの場合は Tomcat のバージョンアップはされませんので、必要に応じて当該バージョンの Tomcat をインストール・構成の上、ご利用ください。

Tomcat の JVM 参照先について

Tomcat の Java Virtual Machine 参照先は Tomcat 構成ユーティリティの Java タブで設定できます。必要に応じて変更の上、ご利用ください。

Tomcat 構成ユーティリティ起動方法：

1. [スタートメニュー] - [すべてのプログラム] - [ibi] - [Tomcat]の[Tomcat 構成ユーティリティ]を選択します。

**WebFOCUS に使用する他社製コンポーネントについて**

インストールプログラムには、Tomcat、Oracle JDK、Derby、Solr の他社製コンポーネントが含まれます。

導入後に発表された新たなセキュリティ上の脆弱性など一部の問題を解決するために、新しいバージョンへのアップグレード等別途対応が必要となる場合があります。

他社製コンポーネントのバージョンについての詳細は、『WebFOCUS リリースノート』および各ベンダーサイトをご確認ください。

WebFOCUS リリースノートについて

『WebFOCUS リリースノート』には利用される環境によって必要な設定および注意点が記載されています。

WebFOCUS をご利用の前に必ずご一読ください。

リリースノートは以下のサイトからダウンロードしていただくことができます。

<https://wfp.ashisuto.co.jp/service/>

リリースノートをダウンロードするためには、WebFOCUS Knowledge base へのアカウント登録が必要です。アカウントをお持ちでない場合は、上記 URL 上に表示される「WebFOCUS Knowledge base とは？」のリンクからアカウントの申し込みを行ってください。

以上